



冬休みは家族の一員として、有意義に

2学期も残すところわずかとなりました。2学期は、1年の中で一番の充実期といってもよいと思います。子どもたちは、学校で様々な行事や体験をしました。今年から少し夏休みは長くなりましたが、9月は猛暑が続き、熱中症対策に奔走したことが思い出されます。陸上記録会や運動会、持久走大会などの体育的な行事、音楽や図工、理科の学習の一つの成果としての各種発表会や教育文化作品展、また、各学年で実施した校外学習も子どもたちにとって、楽しい思い出になったことと思います。

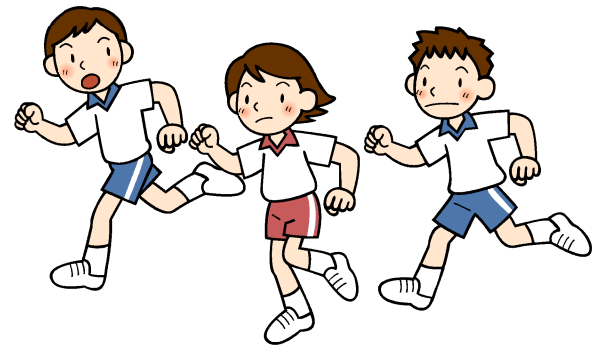
冬休みが終われば、3学期です。3学期は1年のまとめであると同時に、次への準備期間でもあります。6年生は西小を巣立ち中学校生活への準備、それ以外の学年は一つ上の学年へ進級します。一つ学年が上がりお兄さん、お姉さんになると勉強の内容も今よりは少し高度になり、また、生活面で求められることが増えます。

冬休み中は、ご家庭で、家族の一員としての役割をもたせていただくとともに、分からなかった勉強を復習する習慣を身につけてほしいと思います。また、何よりも3学期、その先の新年度を迎えるための気力であるやる気エネルギーを充電していただいで、元気よく送り出していただけたら幸いです。よいお年をお過ごしください。



持久走大会開催しました！

走るって苦しいけど、走りきった爽快感、達成感って気持ちいいね



11月28日(木)北風がやや強く吹く中でしたが、子どもたちは元気よく持久走大会に挑みました。この日のために、運動会後に始まった20分休みの「ランランタイム」や体育の授業で子どもたちは身体を鍛えてきました。結果や順位ばかりに目を向けるのではなく、個人の目標に向けて努力することに価値を見出ししてほしい。そんな気持ちで応援しました。最後まで、がんばって走った子どもたち、子どもたちの安全を見守ってくれたボランティアの皆様、子どもたちに声援を送っていただいた保護者の皆様に大会を盛り上げていただきました。皆様に感謝です。

— 子供の脳育&心育 魔法の食事 — 家庭教育学級開催

12月5日(木)PTA教養文化部の皆様に企画していただいた家庭教育学級が開催されました。今年は脳科学的栄養学を専門とされる市内在住の先生を講師にお招きし「子供の脳育&心育 魔法の食事」をテーマにご講演いただきました。身体によい栄養素やその摂取方法、健康な脳を育てる食生活や生活習慣のポイント、そして最後は、愛情たっぷりの言葉で魔法をかけることで、脳育&心育が完成するといった内容だったと思います。大変勉強になりました。ご準備いただきました教養文化部の皆さんありがとうございました。



西小の取組紹介⑦

がんばる西小の子どもたちと先生方を紹介します！

サイエンスドクターによる理科の授業支援

11月20・21日の両日、群馬大学大学院理工学府から院生を招き、5・6年生の理科の授業支援が行われました。

この日の学習は「プログラミング」の理解です。子どもたちは、ロボットを操るための専用のタブレットにアイコンのプログラム（命令）を貼り付け、動作させます。はじめはロボットに簡単なあいさつをさせたり、直進させたりする命令で、操作に慣れ、後半は、障害物を回避して目的地にたどり着くミッションに試行錯誤しながら取り組みました。まるで、自動で動くお掃除ロボットのような様子でした。

子どもたちからは「やったー」「できた！」の声や拍手が自然に沸き起こりました。楽しく学習ができたようです。

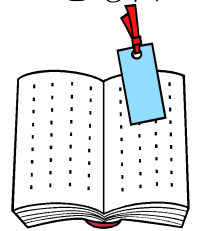


お兄さん・お姉さんによる読み聞かせ



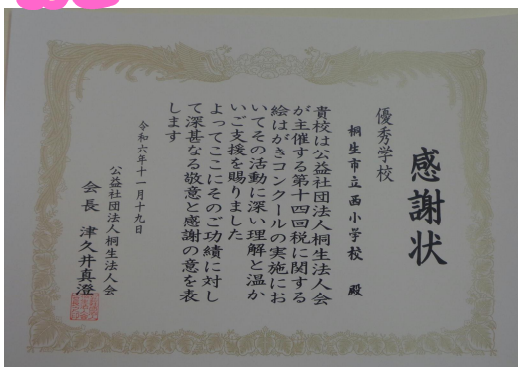
木曜日の昼休みの時間に、読み聞かせを開催しています。毎回、お兄さん、お姉さんによる読み聞かせを食い入るように、聞き入る低学年の子どもたちの姿が見られます。読書離れが危惧されている昨今で、本校の取組みの意義や価値は大きいと思います。また、本の貸し出しや図書室の利用者が多いことも西小の自慢できることです。

冬休み中は、ご家庭でみんなで一緒に読書する機会を設けてみてはいかがでしょうか。



祝

「税に関する絵はがきコンクール」で西小が優秀学校賞！



西小の子どもたちが、がんばって描いてくれた税に関する絵はがき。その作品が優秀であったことから、この度、桐生法人会から優秀学校としての感謝状をいただくことができました。

教育文化作品展開催

11月30日（土）から3日間、市文で桐生市教育文化作品展が開催されました。西小からも多くの作品（新聞、絵画、造形、習字等）が展示され、来場者の方を楽しませることができました。



校長室から

「学期末の大掃除で思うこと・・・」

学期末。学校では、この時期に大掃除をします。普段は、手の届かないところまで子どもたちが丁寧に、がんばって掃除をしてくれています。その姿は、楽しそうでもあります。海外の学校では、清掃は業者に任せ、子どもたちが行わないところも多くあり、「掃除」は世界に誇れる日本の文化の一つかもなのかもしれません。私が教員になったばかりの頃、先輩から「環境が人をつくり、人が環境をつくる。掃除は手を抜かず、丁寧に！」とアドバイスされたことがありました。道端にゴミが落ちていることに気づいたときに、心の中で何を思うでしょう。「自分の捨てたゴミではない」「電話して対応してもらおう」「悪い人がいるものだ」とややもすると他人事にしてしまっていないか？しかし、それを放置しておく私たちは、その場にゴミを捨てることへの抵抗感が薄れてしまう。つまり、環境が人の心に影響を与えているということになってしまいます。最初は小さなゴミであっても、やがて、そこには、ゴミの山という形が残るだけでなく「無責任」「無関心」という空気が、ゴミの山の周辺を覆ってしまうことになりかねない・・・。年末は、ご家庭でもみんなが役割をもって楽しく掃除をし、気持ち新たに清々しい新年を迎えてみてはいかがでしょうか。

